

平成23年度 福岡市ごみ減量・リサイクル推進会議議事録

日時：平成24年1月16日（月） 14:30～

場所：西鉄イン福岡 2階大ホール

（1）福岡市の家庭ごみ減量・リサイクルの取組みについて

（福岡市環境局家庭ごみ対策課）

[質疑・応答]

○委員

全国の状況について申し上げますと、平成21年度のデータによれば、一人一日あたりのごみの排出量は994gである。それに対して、家庭から出てくるごみに限定すると、550gが平成21年度の数値になる。

さきほどの福岡市の報告の数値で計算すると、福岡市は家庭から出るごみについては、一人あたり526gで全国平均より低いということになる。それだけ家庭系ごみについての減量の努力が出来ていると考えられる。

残念なことに、一人あたりのごみの排出量は、事業系ごみも含めた排出量を人口で割って計算するが、先ほどの数値で計算すると1055gになり、こちらの方は全国平均より高い。

家庭系ごみの減量が地域の取組みとして進んでいる割には、事業系の方が悪いとはっきり出てくる。福岡市の状況としてはそういうことである。「市民はなかなか良くやっているよ」ということになる。更に一段とがんばっていくことが必要だと思う。

○委員

今の委員のお話しにも関係するが、私が気になっていたのは、この会議は福岡市のごみ減量全体がテーマであり、家庭系ごみだけが対象ではない。当然委員の中にも、家庭系の委員と比べると少ないかもしれないが、事業系の委員も入っている。先ほどリサイクルの取組み等の話があったが、大部分が家庭系ごみの話であり、事業系ごみについてはほとんど触れられていない。

事業系ごみについても様々な取組みが行われているようであり、次回からは報告の中で事業系ごみについても取り扱って頂きたい。今の委員のお話によれば、福岡市では事業系ごみの排出量が全国平均より多いとのことであり、様々な方に関心をもっていただくことが重要である。

●家庭ごみ対策課

報告内容の中で、本年度から事業系ごみの資源化推進ファンドを設けて、今後更なる事業系ごみの減量について推進していくと申し上げたが、報告内容はどちらかというと家庭系ごみ中心であり、ご指摘頂いたように全国平均より事業系ごみ排出量が多いという状況があるため、今後事業系ごみの減量化に向けて、この資源化ファンドを用いて取り組んでいきたいと考えているので、関係事業者の方にもご理解とご協力をお願いしたい。

(2) 事例発表：高取校区のごみ減量・リサイクル推進の取組み

(高取校区ごみ減量・リサイクル推進会議)

[質疑・応答]

なし

(3) 事例発表：ソラリア西鉄ホテル・西鉄グランドホテルの取組み

(株式会社 西鉄シティホテル)

[質疑・応答]

○委員

環境行動賞を取られたということで、ある程度、発表者の活動内容については知っていたが、かなり幅広い取組みをされていて驚いた。

環境に対する理念もしっかりしておられるところ、敢えてお尋ねしたいが、設備投資を除いて、堆肥化に係るランニングコストや堆肥の販売収入と、それ以前のごみ処理費用を比べたときに、収支はどうなるのか。

あまりプラスにはならないのか、それとも、ごみを業者に回収してもらう費用と比べると経費的にプラスになるのか、大まかな収支を教えてください。

●発表者

当然、有価物であるため、出来た堆肥は販売している。ただし1トン10円であり、決してここから利潤が出てくるというものではない。

これをスタートさせる時に、自分は構想段階から携わったが、かなりビル内で苦勞もあったけれど、ビル内の事業者の皆さまにお願いしたのは、いままで生ごみを回収に出す際に払っていた費用分を納めていただき、それ以上の対価は頂きませんということで、スタート時には納得していただいた。

正直に申し上げると、当初は社内で堆肥化するよりも回収した方が安いということが当たり前だったが、現在はおかげさまで軌道に乗り、なんとか収支が均衡している。

(4) 各団体の活動状況について（福岡市環境局家庭ごみ対策課）

[質疑・応答]

なし

(5) その他：事務局報告（福岡市環境局家庭ごみ対策課）

当会議については、各界各階層の市民、事業者、本市が一堂に会し、情報や意見を交換し、ごみ減量とリサイクルの実践活動を全市的に推進するために開催してきたところである。

一方、今日の環境問題については、生活に身近なごみに関することから、地球温暖化対策などの地球規模の問題まで、多岐に渡ってきており、地域における環境活動においても、環境全般に関する幅広いものになってきている。

また、本市のごみ処理基本計画も、来年度からは「新循環のまち・ふくおか基本計画」として新たなスタートを切ることとなっている。

その様な状況を踏まえ、事務局としては、本会議を本年度で一旦終了し、来年度からは、循環型社会の構築に向けた取組をより一層強化するため、幅広い分野での情報や意見を交換し、その実践活動の推進を図る新たな形で会議をスタートさせていく。

委員の方々には、ご協力を願うこともあるかと思うが、その際は、よろしく願いしたい。

また、これまでの会議運営に関して、委員の方々には多大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。